

理科教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	白亜紀の世界を学ぶ～化石採集を通して	
日時	令和元年8月1日(木)	
会場	三笠市立博物館	
講師	<p style="text-align: center;">加納 学 氏</p> <p style="text-align: center;">(肩書:) 三笠市立博物館 館長</p>	
参加者	30名	
研修会 の 様子		<p>北海道は日本有数のアンモナイトの産出地です。その中でも、アンモナイトの展示、日本一の三笠市立博物館でレクチャーを受けることができました。アンモナイト600点、その他の展示400点と豊富な化石資料が揃っていました。</p>
		<p>写真に写っているのは、世界最大のアンモナイトです。直径が、2, 5mもあります。アンモナイトの卵は1mmほどですので、時間をかけて大きく成長していくことです。殻の中には、空気をためる部屋があり、浮き袋代わりに使用されていたそうです。</p>
		<p>化石採集についての講義です。今回の採集場所は、かつて浅い海で堆積していった三笠層です。砂岩・礫岩が多く、二枚貝の化石が含まれている層です。特に、トリゴニア(三角貝)が産出するとのことでした。</p>
		<p>三笠層での化石採集です。主に、崖から転がってきた岩から化石を探します。石割ハンマーを使って岩を割ったり、岩を返したりしながら探しました。</p>
		<p>なかなか状態の良い化石は見つかりませんでしたが、アンモナイトの跡が残った化石を見つけることができました。</p>